

平成 29 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成 28 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月22日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	(1) 授業改善により確かな学力の向上を目指す。 (2) 外部機関との連携により支援を的確に行う。	(1) 生徒の実態や多様な学習ニーズに対応した柔軟な教育課程の研究を推進する。 (2) 教科会を通じアクティブラーニングの視点を踏まえた授業改善を推進し、基礎基本的な学力の定着と学習意欲の向上を図る。	(1) ①柔軟な教育課程の編成に向け、全教科で見直し・改善を図る。 ②学校行事等の見直しを図り、学習の「量」を確保する。 ③3修制を希望する生徒の卒業率をあげるための支援を行う。 (2) ①ICTの活用やグループ学習等を導入した授業研究を進める。 ②授業において基礎基本的な学力の定着を図るとともに、主体的な学びを通じ、思考力等の育成を図る。 ③各教科「定期テストの共通化」の実施に向けた検討を進め、教育の質の向上と共通性の確保に努める。	(1) ①教育課程の見直し・改善が図れたか。（担当者による評価） ②年間の授業時数を増やすことができたか。（年間授業時数調査） ③3修制を希望する生徒の卒業率をあげることができたか。（卒業生数の推移） (2) ①組織的な授業改善ができたか。（担当者による評価、生徒による授業評価アンケート） ②生徒の基礎学力、思考力等を伸ばす授業ができたか。担当者による評価、生徒による授業評価アンケート） ③共通テストが実施できたか。（共通テストの実施率）	(1) ①学校設定科目に「基礎国語」「英語リーディング&ライティング」「日本語入門Ⅲ」を新設し、3、4年次以降の基礎力の充実を目指した。 ②H30年度に向けて、夏季休業期間や行事日程を見直した。 ③3年での卒業を希望する生徒に対して、丁寧に対応したが、卒業生は前年比5人減となった。 (2) 「調べ学習のプレゼン」「個々の能力、進度にあわせた授業展開」「ICTを活用した他言語の習得」等、着実に授業改善の成果をあげた。	(1) ①H30年度も引き続き、学校設定科目の検討を継続し、生徒の実態に即したカリキュラムを構築していく。 ②今後も、年間行事予定の検討を踏まえ、授業時間数確保に努めていく。 ③三修制による卒業率の向上に向け、1、2年次より単位の履修・修得に向けての意識を高めさせることが今後の課題である (2) 今年度は、授業改善に向け、教員同士の授業を参観する週間を設定したため、ICTを活用したり、グループ学習を取り入れた授業実践例が増加傾向にある。H30年度以降、さらに教科として共通教材の開発も含めた研究を推進していく。	・外国につながる生徒が多いので、それを活かしたアクティブラーニングなども検討して欲しい。 ・校内でしっかりと分析して評価をしている。 ・定時制だから出来ることについてもっと中学校の教師、中学生、保護者にアピールが必要ではないか。定時制の特色や良い面が広く理解されていない。	(1) 外国につながる生徒に対して、1、2年次における学習支援は一定程度の成果をあげている。H30年度は、3、4年次において継続的に指導する体制の効果に対する検証が必要になる。 (2) 授業改善により、着実に授業の「質」が高められてきた。今後は、成績上位の生徒へのフォローにも力を入れ、さらに幅広く生徒のニーズに添えていく。 ・中学校教員及び外部機関に向けて、定時制の取組み、生活等の周知を図り、入試にもつなげていく。	(2) 選択科目の充実とアクティブラーニングの視点を踏まえた授業の研究・推進する。 ・県全体の取組である公私合同説明会、学校単独の学校説明会、学校見学会の他、地域協同の福祉協議、等の機会を捉えて、これまで以上に定時制の特色について広報に努める。
2 生徒指導 ・支援	(1) 規範意識を身に着けた円満な人格形成をする。 (2) 健康に留意し心身の調和的発達を目指す。	(1) 全職員体制で、きめ細やかで粘り強い生徒指導に取組み、生徒の規範意識や基本的な生活習慣の育成を図る。 (2) 生徒の自立に向けた支援体制を組織的に行い、自己肯定感や自己有用感を育む。	(1) ①授業中の携帯電話使用や二足制の遵守等、生徒のマナーやモラルの向上に向け、職員間で統一した指導を行う。 ②巡回指導と生徒への声掛けを通じ、問題の未然防止に努める。 ③本校の「学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止に努め、円滑な人間関係の構築に向けた支援をする。 (2) ①スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールメンター、及び外部機関と積極的に連携しながら、様々な課題を抱える生徒に対する支援を組織的に行う。 ②学校行事や部活動等への主体的な取組みを促進し、教科外活動の充実を図る。 ③多文化教育コーディネーターや学習サポート支援員等と連携し、日本語を母語としない生徒の支援を推進する。 ④インクルーシブ教育に向け	(1) ①生徒が基本的な生活習慣を身に付け、ルールを守り、学校生活を送ることができたか。（特別指導件数の推移） ②巡回指導を通じ、問題行動を未然に防ぐことができたか。（特別指導件数の推移） ③速やかな情報収集と早期対応ができたか。（担当者による評価） (2) ①職員全体で生徒の状況を把握し、組織的な支援ができたか。外部と連携できたか。（担当者による評価） ②生徒の学校行事や部活動等に対する自主性・主体性を高めることができたか。（担当者による評価、部活動加入者数による推移） ③日本語を母語としない生徒に対して支援ができたか。（担当者による評価、生徒対象アンケート） ④研修や外部連携ができたか。（担当者による評価）	(1) ①②過去2年(29、22件)と比較し、39件と指導件数が大幅に増えたが、巡回・立番の見直しで成果をあげた。 ③「いじめ・暴力防止週間」におけるアンケート及び面談を年3回行い、情報収集並びに未然防止に努めた。また、いじめ問題検討会議を定期的に開催し、情報共有のもと組織的な取組みを目指した。 (2) ②球技大会や翠翔祭では徒会執行部と実行委員が主体的に活動することで、授業では学べない経験や達成感を得ることが出来た。 部活動については、加入率に大き	(1) ①②実態に応じた指導体制および指導方針等を見直す必要がある。また指導を通して生徒との関係性を築く大切な機会として捉え、職員全体で統一した指導を行う。 ③いじめ基本方針の改定に伴い、いじめ防止の校内研修を充実させ、組織的な取組に繋げていく必要がある。生徒の何気ない変化に気づくことが出来るようアンテナを張ると同時に、教員間で情報共有をし、速やかな対応が出来るよう今後も継続していく。 (2) ②生徒が主体的に取り組める環境を整備する。（活躍の場の拡大、準備時間の確保、全日制との連携、人材確保等）特に一般生徒の参画は年間を通じた活動を維持していくた	・外国につながる生徒の支援が充実しているが、外国につながることに關するメンタル面のケアが必要な生徒が多くいる。全生徒の心の支援の充実に向けて欲しい。 ・昨年に引き続き全国大会に出場する部活動があり、活発な生徒の活動を支える教育体制を継続して欲しい。	(1) 「いじめ・暴力防止週間」におけるアンケート及び面談の回数を昨年度より増やし情報収集並びに未然防止に効果を上げた。今後も引き続き、SC、SSWをはじめとする外部機関と連携を取りつつ、メンタル面に課題を抱える生徒のケアに努め、安心・安全に学校生活を送れる体制を構築していく。 (2) 生徒会執行部を中心に、生徒会活動が活性化された1年となった。H30年度はこの流れを維持、伸長させ、さらに生徒の主体性を高められるよう、翠翔祭をはじめ行事、委員会活動の検討を深めていく。	(1) いじめ等を早期発見するために、教員の研修を充実させる。 ・インクルーシブ教育について理解を深め、継続して個々に応じた合理的配慮を進める必要がある。 引き続きSC（スクールカウンセラー）、SSW（スクールソーシャルワーカー）、コンソーシアムサポーター等の外部人材を活用して、支援機関とつながり更に教育相談やキャリア開発等の生徒支援体制を充実

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月22日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
				た準備を更に進めていく。		な変動はないが、主体的、継続的に活動する団体が増加した。		めには必須であるため、行事ごとに有志を募集する等の工夫も必要である。		させる。
3	進路指導・支援	(1) 外部機関と連携し、外国につながる生徒等のキャリア支援体制づくりに取り組む。 (2) 進学希望の生徒のニーズに応じた取組みを推進する。 (3) 計画的・系統的な実践を通じ、生徒に職業観・勤労観を身に付けさせ、自らの意志で自己の将来を設計する能力を育成する。	(1) ①進学希望者に対して夏季集中講座や補習等、進路実現に向けた取組みを充実させる。 (2) ①コンソーシアムサポーターと連携し、インターンシップや会社見学、上級学校見学を通じ、勤労観、職業観を育成する。 (3) ②外部機関との連携等による支援教育を積極的に行い、生徒の人間関係育成能力やコミュニケーション能力を育む。	(1) ①生徒に的確な情報提供、進路指導を行うことができたか。(担当者による評価) (2) ②進路決定者の割合が増加したか。(進学率の推移、生徒対象アンケート) (3) ①外部機関による説明会や就業体験学習(インターンシップ)を効果的に実施できたか。(担当者による評価、生徒対象アンケート)	(1) ①担任とキャリアがイブンス班が中心となり、生徒が必要とする情報をタイムリーに提供した。 (2) ②1月末現在で進学16名、就職3名という状況である。 (3) ①インターンシップ体験生徒が前年度7名から14名へと倍増した。	(1) ①H30年度も、グループが中心となり、生徒一人ひとりのニーズに応じた進路情報を提供していく。 (2) ②就職希望者が減少したが、進路への意識を高める方策を検討、実践していく。 (3) ①インターンシップ等を通じ、生徒の職業観の育成を図っていく。	・インターンシップの参加者が増加したことは、よい傾向である。計画的に指導を重ねていく。	(2) インターンシップ体験生徒が、前年度より倍増したことは、今後に向けての成果となった。反面、就職、進学に向けての知識と意識の伸長をいかにして図っていくか、新たな体制づくりが今後の課題となっている。	(2) 学年全体で実施する説明会やガイダンスに加え、1年次より生徒個々のニーズを踏まえた進路設計を立て、計画的に指導を重ねていく。	
4	地域等との協働	(1) 地域に開かれた信頼される学校づくりに取り組む。 (2) 家庭・地域と連携し問題の未然防止や早期対応に努め、「協働」「共育」により安心安全な学校づくりを目指す。	(1) ①HPやメール配信システム等を通じ保護者や地域に対し、情報発信を速やかに行い、教育活動の見える化を図る。 (2) ②保護者・地域・警察等と連携し、問題の未然防止に向けた取組みを強化する。 (3) ③地域パトロールや美化活動等、地域貢献活動を積極的に行う。 (4) ④保護者、地域等との協働による行事を実施し、共に育む体制を構築する。	(1) ①ホームページの更新がスムーズにできたか。速やかに情報発信できたか。(担当者による評価) (2) ②保護者・地域・警察等と連携し、問題の未然防止ができたか。(担当者による評価) (3) ③地域貢献活動ができたか。(実施状況) (4) ④地域や保護者との協働による教育活動ができたか。(担当者による評価)	(1) ①月間行事予定、陸上競技部等の全国大会結果報告等を速やかに情報発信した。 (2) ②保護者に加え、所管警察、外部支援機関等と連携を密にし、課題解決にあたった。 (3) ③④域貢パトロール、防災訓練、保護者とのふれあい活動を実施した。	(1) ①今後も、学校説明会、学校紹介等中学生に向けた情報発信にも力を入れ、ホームページをさらに充実したものにしていく。 (2) ②警察、外部支援機関等との連携を通じ、迅速かつ的確な生徒指導を目指していく。 (3) ③④地域との連携を深め、地域に根ざした学校づくりを推進していきたい。	・地域と連携した避難訓練は今後も継続して欲しい。	(1) ICTに対応した教室を整備した。電子黒板・タブレット、無線Wifiを利用した授業の研究が期待できる。また、放送設備の改修の他、グラウンドのスプリンクラー改修、校舎の屋根の防水を実施した。	(1) 生徒の地域貢献活動参加の拡大を図る。 ・地域と連携した避難訓練を継続する。 ・トイレの改修工事に入る予定である。 ・校舎内外の修繕や教育備品管理を進め、学習環境の更なる安全・保全に努める。	
5	学校管理 学校運営	(1) 常に安全・安心で快適に学べる教育環境の整備に努める。 (2) 事故・不祥事防止に努め、地域・保護者に信頼される学校づくりを推進する。 (3) 生徒の防災意識を高め、安全策強化に努める。	(1) ①事故・不祥事防止研修等を通じ、職員全体が高い意識を持つとともに、風通しの良い職場環境を整える。 (2) ②入学者選抜、成績処理、調査書作成、会計処理等について点検体制の見直しを図り、一層の事故防止に努める。 (3) ③生徒の個人情報の適切な管理の徹底を図る (4) ①地域等と連携し、防災教育を推進するとともに、防災マニュアルについて必要な改善を行う。	(1) ①研修等を通じ、職員の意識を高めることができたか。(担当者による評価) (2) ②点検体制を強化し、事故・不祥事ゼロを実現できたか。(担当者による評価) (3) ③生徒に対する防災教育を実施できたか。(担当者による評価)	(1) ①職員会議、朝の打合せを通して、繰り返し研修を重ね、事故・不祥事防止を図った。 (2) ②成績関係書類等の作成、処理におけるチェックの徹底、教務手帳用に個人ロッカーを購入する等、管理を強化した。 (3) ③9月は夜間、2月は帰宅シミュレーション形式の防災訓練を実施した。	(1) ①職員一丸となって、事故・不祥事防止に向けた職場環境を整えるため、次年度も研修等を実施していく。 (2) ②手順、点検方法等の見直しを図り、事故の無い体制を築くとともに、個人情報保護においても、さらに万全を期せる様努めていく。 (3) ③生徒の防災意識を高め、災害時に迅速に命を守る行動を取るための、指導計画を立てていく。	・引き続き事故不祥事防止に努めて欲しい。 ・引き続き生徒が安全な環境で学習できるように設備等保全や改修に努めて欲しい。	(1) 定期的に研修を重ねるとともに、環境整備にも努める等ソフト面、ハード面ともに一定の成果をあげた。 (2) 防災訓練は予定通り実施できたが、今後は環境整備の充実に努めていく必要がある。	(1) 校内マニュアルの見直しを図り、職員全体に徹底していく。 (2) 放送機器、照明器具、備蓄食料等防災関連用品の確保を図る。	